

# 自殺に向かう若者 どう対応

## 人とのきずな 生きる力に

自殺者が年間三万人を超える日本。それぞれに悩みを抱え、死に向かうおつとして人々に、私たちは何ができるのだろうか。京都市左京区の中国国際交流会館で、シンポジウム「死にたくなつて、つよくなる」を生きることにしんどい人が、大切なことを伝えてくれる」(全国精神保健福祉連絡協議会主催)が開かれた。人とのつながり、生死や心について幅広く話せる環境など、今の社会が失いつつあるものを、どう再生するかについて語り合った。(相見昌範)

### 「頼ること」伝えて 命の尊さ 教える社会に

ケアすることで自分もケアされたいと思っ部分もあるのでは。若者の性の問題に取り組む医師の岩堂紳也さん 生や命が子どもから遠ざけられている。性教育で命の大切さを伝えようとしても、子どもへは言葉ではほとんど響かない。私がみてきたエイズ患者のほとんどはセックスで感染した。コンドームを使わなければ多くの人が亡くならなかった。でも、社会はそれをきちんと伝えていない。性感染症になる子は、病気になるなど自分を傷つけてでも癒やしをもらいたいと思っている。人とうまくつなげられないからいるんならトラブルに巻き込まれる。

寺院を社会資源とらえ、相談活動を展開する千光寺(岐阜県高山市)の大大園住職 現代に生きる人はストレスが多い。仕事や人間関係で燃え尽き症候群になり、「やめたい」「死にたい」と思う。その経験をふまえて、あなたらしく生きるにはどうしたらいいか。仏教では縁という言葉をよく使う。私がこの世にいる「自縁」▽他者や動植物を含めた「他縁」▽宇宙や真理、つまり私たちを包んでいる大きな存在の「法縁」だ。もし他者との縁が切れても、大いなる「いのち」に生かされている私がいると感じた時に、行き直せる。一人じやないと感じる。

死にたくなつて、つよくなる



自殺予防に取り組む精神科医の松本俊彦さん 十代の若者のアンケートによると、一割は自傷をしている。リストカットする理由は、不快感情への対処(55%)▽自殺の意図(18%)▽人の気を引こうという操作・意志の伝達(18%)。誰にも助けを求めず、苦しみも自分で解決する手段として行っていることが多くいと分る。心の痛みを耐えるために体の痛みを利用している。でも体の痛みには慣れるので、「生

録 講演・シンポから